
はじめに

TOEFL iBT® が開始されたのは2005年です。当初の本テストは4時間近くの所要時間と難易度の高い英語4技能を試す問題群で、試験当日の多くの受験者に開始後すぐに衝撃と無力感を与えたものです。一方、筆者の印象は「難しいけどきめ細かで受験者の高度な英語力を証明できる」というもので、間もなくこのテストが好きになりました。その結果、この難解なテストにフォーカスし基礎単語を省いた単語暗記本として『TOEFL® iBT 頻出英単語1700』を上梓したのがその翌年ですから19年の歳月が流れたわけです。お陰様で『1700』はその間に多くの熱心な読者の皆さんにご愛用頂き、留学などの夢実現のお役に立つことができました。実際、データとしてかなりの数の100点突破者の一助となり、私の知る生徒さんの中には116点を獲得された方もいらっしゃいます。

そして今この20年の流れが新しい TOEFL iBT 生み出すことになりました。コンピュータやインターネットの進化、スマートフォンの登場、更に極めつけは AI の登場が、人の意識を変え TOEFL iBT にも変化を求めたのでしょう。筆者の独断ですが、良くも悪くも人間がもたらすスピードというものが、新 TOEFL iBT の登場に関係していると思います。

いよいよ2026年1月に Adaptive 方式の新 TOEFL iBT® TEST が開始されます。当初は4時間だった試験時間は今や約90分になります。4技能は変わりませんが、各セクションの問題群もそれぞれがコンパクトでシンプル。かなり解きやすいです。音声面の運用がより強調され、アカデミックな側面が少し弱められ、キャンパスライフの実用面に関する出題が以前より多くなります。設問タイプでは Duolingo English Test(DET) のそれとほぼ同ようなものも見受けられます。

但し、新 TOEFL の今回の目玉は恐らく Adaptive 方式でしょう。簡単に説明すると Reading や Listening のセクションでは、まず標準レベルの問題群が出題され、受験者の出来具合に基づいて次の問題群レベルが決定されます。つまり次の段階では受験者全員が同一問題を解くことはなくなるわけです。旧 iBT は Adaptive ではなく単一レベルの問題しか出題できなかったのも、難解な問題が多い場合、初級・中級の英語学習者の実力を細かく査定することが不可能な試験でした。この弱点が新 TOEFL ではすっかり改善されます。標準レベルの問題から難易度の高い問題まで、受験者の到達度がより正確に測られます。

前置きが長くなりましたが、このような状況で新 TOEFL 用の『1900』は登場します。もちろん単に『1700』から200語増えただけではありません。新 TOEFL への主な対応点は以下の3つ：

例文の難易度を多様化

ほぼ全例文がアカデミックな比較的長めのものだった『1700』と違って、『1900』では会話系の英文や比較的平易な英文をまじえて、中級（標準）の出題にも対応しています。

音源利用の多様化に対処

ダウンロード式でストレスなく音源が使える、しかも「例文付き」と「例文省略」の両ファイルを備えているので、新テストでは特に重要な音声を利用した暗記演習の「やりやすさ」を担保しています。

穴埋め式 Quiz の出題

同意語問題の為だけでなく、Reading Section の Complete the Words 問題に対応するためのスプリング演習として、ABC各 Group で「穴埋め式 Quiz」を用意しました。Writing Section の Write an Email や Academic Discussion の為にも、この Quiz で正しい綴りで定着させましょう。

以上が『同意語で覚える TOEFL TEST 頻出英単語1900』の誕生の理由と目的です。人間のもたらすスピードが生み出したコンパクトな新 TOEFL 対策用なのに表題単語数が増えた『1900』ですが、あとは読者の皆さんが本書を如何に利用されるかです。音源を聴きながらできればコーヒーの染みがついてボロボロになるまで、そして最後の夢実現まで、粘り強く愛用してください。姉妹版の『TOEFL TEST 必須英単語5600』との併用も効果的ですので、何卒よろしくお願いします。

2025年8月某日、 暑さもほどほどの夜更けに 林 功